

●ニュース
平成 19 年度
定期総会が
あります！

いた便り No. 9

2007. 6. 1

岡崎まち育てセンター・りたは、市民活動を応援します。



長期 計画

6月3日(日)13:00より、岡崎市北部地域交流センター・なごみん防災活動室にて『りたビジョン会議』が予定されています。

これは、5年、あるいは10年という中長期の組織としてのビジョンを語り合い、あわせて今年度の到達目標、今年度の自主事業展開に活かすことを目的としています。日々の業務に振り回されることもしばしばですが「10年後の岡崎はこうありたい」といった大きな志を存分に語り合い、これからの行動計画を分かち合えればと考えております。



6月11日(月)13:00より、岡崎市福祉会館301号室にて『りた平成19年度総会』が予定されています。昨年度一年間の取り組みを振り返り、今後1年間を見通す場となればと考えています。市民活動の輪を広げ、地区まちづくりの支援を進め、あるいは市民活動の支援の仕組み(資金循環、情報循環、制度設計)など多様な取り組みを進めてきました。

市民が主体的に取り組む創造的なまちづくりが益々元気になる1年にしたいですね。



会員紹介

<ごみ問題を考える市民の会>

私たちの会は1992年の発足で、市が「中央クリーンセンター」の建設を始めた年です。以前から市議会を傍聴していて、クリーンセンターが「分別収集でなく、埋め立て方式」と判り、環境問題に関心の在る5つの団体に呼びかけ、3月議会へ分別収集にして欲しいと陳情しました。ブラジルで世界環境サミットが行われる6月、5つの会が合併して「ごみ問題を考える市民の会」を発足させました。

籠田公園で第2日曜の1時から3時まで「アルミ缶・牛乳パック・新聞紙・不要衣料・ダンボール」等リサイクル可能な品を扱いました。これは行政に多大の応援を頂いてのことです。

翌年からフリーマーケットの開催。1997年からはペットボトルの回収を始め、行政にバトンタッチできるまで2年間、引き受け手の高木科学研究所との連携プレイをしました。その間に行政の分別収集も軌道に乗り、私たちの思いも可能になりましたが、環境問題はますます地球規模の問題となり、そこで2001年から年間2回の「環境講演会」を開催しました。

[環境問題みんなで考えよう。地球の未来は誰のもの]をキャッチフレーズに、ドイツの取り組み紹介、市会議員の海外研修報告、産業廃棄物の行方等、で今回3月3日が12回目の開催でした。色々な場所での此方の報告会やら実績がかわれて東海3県で一位になったこと。容器包装リサイクル法の見直し署名や請願運動にも参加しました。後継者難ですが、やっと応援をいただけるようになりました。



岡崎まち育てセンター・りた

団体会員(年会費10,000円)

個人会員(年会費3,000円)

☆ご推薦の団体などお心当たりがありましたらご連絡ください。

事務局(Tel 0564-45-4560)

会員募集中です!



連続コラム第3回『地域活動における意識の革新』

社団法人岡崎青年会議所

理事長 鈴木和也



※りた会員の皆様からの投稿原稿をお待ちしております。青年会議所の鈴木様より、4月のコラムに続いて、第3回目の投稿です（今回は最終回）。

近年、ボランティアやNPO等の市民活動が活発に行われているとはいえ、岡崎市域住民全体では行政主導による公共サービスが当たり前という考えがまだまだ根強く残っているのが現状です。しかし従来の行政主導による公共サービスでは多様化する住民ニーズに即応し、地域の課題を素早く解決するには、対応しきれないケースが増えてきています。また積極的に活動している市民活動団体においては、住民の理解と行政の後押しが得られず壁にぶつかることも少なくありません。さらに地方分権一括法が制定され、制度的にも地方分権化が加速度的に行われています。

そんな時代背景の中、岡崎においても市民や市民活動団体、事業者及び行政が協働することによりまちづくりを進めるための組織として「NPO法人岡崎まち育てセンター・りた」が2006年9月に設立されました。私たち（社）岡崎青年会議所は、この「NPO法人岡崎まち育てセンター・りた」の活動に関わることで、市民と行政が協働するハード面での拠点である交流センターの設置、交流センターを拠点に協働の仕組みをコーディネートするNPOの設立を間近で体感してきました。これらのハードの仕組みをより有効に活用するためには、市民と行政における「新しい公共」のあり方に対する市域住民全体の意識変革が必要だと感じました。

まず私たち社団法人岡崎青年会議所として明るく豊かな社会を築くために岡崎の現状を把握し、新しい公共のあり方を模索しながら学び、そして、市民の皆様には公共・公益的なサービスは全て行政主導で行うのではなく、「行政が中心に担う領域」「行政

と市民が協働して担う領域」「市民が中心に担う領域」を検討し、「自分たちのまちのことは自分たちで決める」という市民主体のまちづくりの必要性を岡崎市域住民の皆様が感じて頂くことを願っています。

そこで私たち（社）岡崎青年会議所では、8月にフォーラムを開催し「自分たちのまちのことは自分たちで決める」という市民主体のまちづくりは決して主体である市民だけで完結するものではなく、「コミュニティ・シンクタンクやまちづくりファンドといった複合的な機能を持つ中間支援組織」や「市民が行政と役割分担をしながら協働する仕組み」の重要性を発信してまいります。

そして、私たち（社）岡崎青年会議所がこれから作成する市民発の「自治基本条例」の必要性を訴え、皆様にそれぞれの役割分担のルールを作った上で自らの役割を主体的に果たすことの重要性を理解して頂き、地域活動における意識の革新につなげていきたいと考えています。この市民発の「自治基本条例」作成に対しては、これから多くの皆様にご理解・ご協力を頂きながら作成してまいります。このおかげに住む多くの人々が、このおかげを思い、自分たちのまちは自分たちでつくるという意識を持つための活動として、2010年に向けて推進していきたいと考えています。自治基本条例作成に多くの方が関わり、岡崎の現状を知り、いろいろな問題を自分のことのように考え、自分でやらなければならないことを知り、自分のまちのことを大好きになってもらいたいと願っています。そんな市民の皆様が多く増え、活動できる場ができれば、必ず私たちが願う子孫へ残したい「おかげ」になると思います。

私たちの愛してやまない宝である子どもたちが、心からこの「おかげ」に生まれて、この「おかげ」に住んでいて良かったといえる地域社会になることを願っています。

いた事業の紹介！



“地域の活動資金提供システム”に向けての取り組み

自治支援部会 部会長 小西 亮

自分たちの住むまちは自分たちの手で、子どもから高齢者まで、安心して暮らし続けられるまちにするためには、今後、町内会などの活動の重要度は今まで以上に増してきます。そこで、高齢者の積極的な参加はもちろんのこと、働き盛りの壮年から青少年、子どもまで幅広く参加者を増やして組織率を高め、町内会等の活性化が必要であると考えております。そのような時代背景の中、岡崎市内を見つめてみると様々な地域で、「防犯活動」、「防災活動」、「福祉活動」、「学区の情報を出来る限り多くに住民に伝達する為の学区新聞の発行」、「子どもをキーワードに学校と地域の連携事業」など、その他様々な今までになかった新しい動きも見られ始めております。

しかしながら、地域活動は上記でもあげたように、防災や防犯、福祉、環境、青少年など、その他非常に幅が広く、またその支援方法が確立されていないという現状にあります。

我々“りた”自治支援部会では、そういった町内会や学区等を始め、様々な市民活動団体の皆様の自主的な活動を支援し、市民及び市民団体、企業、行政の協働によるまち育てを推進する為の仕組みづくりとして「地域の活動資金提供システム」の設置準備を開始いたしました。

今後は、岡崎市内の多くの総代や学区総代会長、学区社会教育委員長の皆様との連携を図り、現場の現状やニーズを十分に調査研究し、市民が支える市民活動支援システムの構築に向けて邁進いたします。

会員の皆様の自治支援部会への参加、又、このシステム設置に向けてご理解とご協力を賜ります様、宜しくお願いいたします。



平成19年度いぶらサポーター活動、始まる。



(仮称) 岡崎市図書館交流プラザ・Libra は、平成 20 年秋に開館予定です。開館する 2 年以上前から市民サポーター活動が始まりました。昨年 1 年間のサポーター活動の模索期を経て、今年度は更にバージョンアップしました。

「Libra のことをもっと多くの市民に宣伝する広報系」「Libra の利用をしやすい体制づくりをする育成系」「より良い Libra のあり方を研究し、提案する研究系」「世代や分野を超えた市民交流の場を創る交流系」の 4 つの活動分野で展開されます(右記)。知的で刺激的な市民の拠点施設づくりに、市民自らが主体的に参加し始めています。まだまだ仲間募集中！

是非市民サポーターの輪にご参加下さい。

平成19年度りぶらサポータープロジェクト

広報系	フリーペーパー「プラザNEWS」
	りぶら・ぶらりマップ作成プロジェクト
	OKAZAKI情報コンビニラック
育成系	りぶらにおける託児サービスシステムおよびスタッフ育成に関する研究
	庭で遊ぼうプロジェクト
研究系	「これからの図書館」を考える会
	「りぶら市民大学」創設準備会
	市民活動拠点として「りぶら」の活用 私たちの問題をみんなで考えるシンポジウム インりぶら
	岡崎むかし語りの会 (仮称)
交流系	デジタル城下町製作プロジェクト
	交流Libra



『市民団体支援組織について学んで（後編）』

（柴田 恭子）

営利を目的とせず、行政に頼らずに地域をよくしようと活動している団体を NPO といい、その「NPO を支援する NPO」を海外では中間支援組織といいます。「りた」は中間支援組織を標榜していますが、NPO だけでなく、支援する対象として地域コミュニティにも重点を置いています。地域の自治が市民の手で可能になるよう支援する組織が「りた」であり、それを通して岡崎を育てる、という理念が根底にあるのだと感じました。現状では自治に対してあまり興味のない人間を地域自治に参加してもらうのはとても大変なことです、非常に重要なことでもあるでしょう。



あくまでも「市民」を中心とした視点から物事を見るということ。市民がいて、それを補完するコミュニティがあり、さらにそれを補完する行政がある、という基本を「基本」に戻すことが大切のようです。地域の問題や課題を解決するための情報が集まり、地域力の底上げ促すコミュニティ・シンクタンクとしての役割を果たす組織が「りた」だと学びました。それはとても困難で根気の要る大変な作業だとも思いました。自分自身が実際にどの程度役に立てるようになるかは分かりませんが、出来るかぎり役立てようがんばりたいと思います。

よろしくお祈りします。



岡崎まち育て情報

…岡崎市内各所のまち育て活動を支援し、市民と行政の対話を促進しています。

① 「第 10 回市民協働の仕組みを考える会議」

日時：6月2日（土）12:00～15:30

場所：岡崎市福祉会館 301

主催：市民協働推進課事業推進班

内容：市民協働条例制定に向けた市民会議が進められています。これまでに、条例の目的や協働の定義を整理してきました。協働の仕組みを整理し、条例の項目に関する議論が始まります。

② 「りたビジョン会議」

日時：6月3日（日）13:00～16:00

場所：なごみん・防災活動室

主催：りた事務局

内容：りたの中長期計画を語り合い、今年度の到達目標に関する話し合い。5年後、10年後の岡崎の姿を描きながら、今年度の自主事業のあり方を協議します。

③ 「第8回 りぶらサポーター交流会」

日時：6月23日（土）13:30～16:30

場所：コミュニティサテライトオフィス

主催：りた事務局

内容：前回の交流会で、平成19年度のりぶらサポータープロジェクトが11本動き始めました。施設開館までの残り1年半で「市民活動の拠点としての Libra」を方向付けしていきます。

④ 「岡崎市市民活動団体助成金の公開審査会」

日時：6月30日（土）9:00～17:00

場所：岡崎市福祉会館 301号室

主催：市民協働推進課市民協働班

内容：市民活動助成金の公開審査会が開催されます。助成総額は150万円です。



事務局
より

10年後の自分、
10年後の岡崎、
10年後のりたを構想中！

〒444-2147 岡崎市西藏前町字季平45-1
岡崎市北部地域交流センター・なごみん内
NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた事務局
☎(0564) 45-4560 Fax (0564) 45-4560